

ぐるっと縦走矢倉岳から明星ヶ岳①矢倉岳

日時：2021年11月20日（土） 天候：晴 歩数：1万8000歩 距離：10km

集合：大雄山駅 8時50分

（小田急新松田駅から地蔵堂バス行き乗車の人は8時40分発→9時00分関本バス停）

コース：大雄山駅関本バス停（地蔵堂行き9時00分発乗車）→矢倉沢バス停→公民館^林（標高248m）→
矢倉岳（標高870m 昼食）→山伏平（標高720m）→足柄万葉公園（標高740m）→足柄峠^林
（標高736m）→見晴台→地蔵堂（標高415m）（バス）→大雄山駅関本バス停

参加者：A班 市村（L） 河野（SL） 平石 澤 奥村 高橋友 加納

B班 山田（L） 勅使河原 奈良 清水 丹後 小田 内海 三田 15人

10月16日にスタートした「ぐるっと縦走矢倉岳から明星ヶ岳」、2回目は9月に予定していてコロナ禍により延期した①矢倉岳です。足柄平野からは、お椀をふせたような美しい姿の矢倉岳が見えます。晴天に恵まれて15人が参加。この日の南足柄市の気象情報は晴、降水確率0%、最高気温17℃と絶好の山行日和。矢倉岳山頂からは、富士山から箱根、丹沢に連なる大パノラマの眺望が楽しめました。昼食後に富士山を背景に集合写真撮影。ところが、奥村さんが感想文で「汗をかきかき無事登頂出来た。頂上で迎えてくれた雲一つ無い富士山の美しいこと。この勇姿を一枚と思いつつ、弁当を優先した私が10分後に目にしたのは上1/3を雲に隠した姿だった。シャッターチャンスは1度だけ！」と指摘しているように、きまぐれ富士山は隠れてしまいました。それでも達成感いっぱいみなさんの笑顔が素敵です。



伊豆箱根鉄道小田原駅～大雄山駅～関本バス停～矢倉沢バス停

伊豆箱根鉄道は、1925年（大正14年）10月に最乗寺参詣のために大雄山鉄道として開業。それを象徴するように、小田原駅の改札上に「大雄山道了尊」の天狗のモニュメントがありました。単線ですが昼間の時間帯は12分ごとに運行していて覚えやすいです。8時00分発の次の8時12分発に乗車しました。終点の大雄山駅で下車。駅横の関本4番バス停で新松田駅発地蔵堂行きバスを待ちます。山田SLらが乗ったバスが到着して合流、御殿場大井線を走り高度を上げて行きます。前方左手には明神ヶ岳、金時山が見えます。9時10分に矢倉沢バス停に到着。公民館前広場で河野SLのリードでストレッチを行いました。



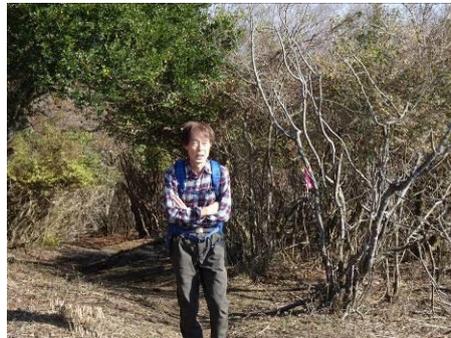
矢倉沢バス停 9時31分～祠～登山口～九十九折り上り～小休憩

市村リーダーがコースを説明して、「安全に楽しく山行するためには、早めの下山時間が必要です。そのようにコースを設定しています。今日は日の入りも早いです。15時前には下山したいと思います。遅くとも詳細地図約2割増しの15時20分には下山します。ご自分の脚力度を知ることも大事だと思います。矢倉岳登りはほぼ1本道です。先頭は山田SLが詳細地図社標準コースタイム110分(矢倉沢バス停～公民館の5分を引くと実質105分)を目安に登ります。中ほど市村Lが1割増しの121分を目安に歩きます。最後尾河野SLです。ご自分のペースで歩いてください。安全を期してトランシーバーで連絡を取り合い臨機応変に登って行きます。矢倉岳山頂からは、富士山から、箱根、丹沢に連なる大パノラマの眺望が楽しめます」と周知。9時31分にスタートしました。集落を抜けるところで道間違い、少し戻って見覚えのある祠に出ました。林道を上り登山口で水分補給と衣類調整。茶畑を右に見て上ります。獣除けのゲートを抜けるとかなり急峻な九十九折りの上りになりました。少し上ったところで再び水分補給小休憩をとりました。



小休憩 10時00分～九十九折り上り～急登～10時59分山頂

10時丁度再スタートです。ここから先頭を山田SLから市村Lに変えました。「頂上までは登りのみ、息を切らせて一步一步落ち葉を踏みしめ急坂を上り、晩秋の山歩きの感触を確かめる。時折吹く冷たい風に舞い落ちる落ち葉、紅葉の木々が秋の日差しに輝いている」と内海さんが感想文で書かれている九十九折から直登の道を登ります。しばらくして三田さんが追いついてきました。空が大分明るく見えるようになった展望の良いところで小休憩。このあと軽い足取りで登ってくる男性が追い抜いて行き、山頂近くでもう下りてきました。高山にそなえてのトレーニングなのでしょうか。10時59分、三田さんと市村が山頂へ。山頂からの景色は、「大きくすそ野を広げ雪を頂いた富士山、丹沢や箱根の山々の稜線がどっしりと迎えてくれた」と内海さんの感想文にある通り。雄大な景観をパシヤリ！



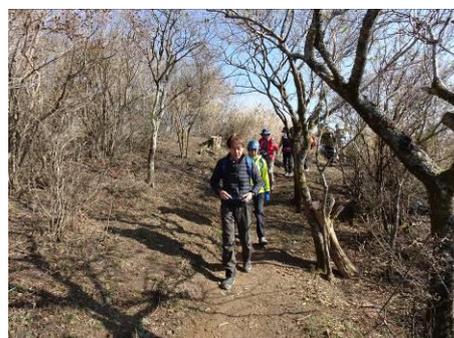
続々矢倉岳山頂（標高 870m）へ 富士山を眺めながら昼食タイム

山頂には小さな祠がありました。11時9分、奈良さんが笑顔で山頂へ、続いて高橋さん。勅使河原さん、奥村さん、旗を振ってくれた山田さんの3人組。小田さん、両手を広げて「ヤッター」感の丹後さん、清水さん。澤さんと内海さん（このおふたり写真撮れていませんでした、ごめんなさい）、河野さん。平石さんと加納さん。山頂は広々としていて、小田さんなど多くの方が正面に金時山、右手に富士山が見えるところへシートを敷いて昼食。丹後さんと内海さんはベンチを確保、後ろに明神ヶ岳（写真右）、前方に富士山を見て昼食。青空のもと山頂を極めた達成感いっぱいの昼食タイムとなりました。



集合写真 矢倉岳記念バッチ 12時00分～12時15分 山伏平

神奈川ウォーキングクラブの旗を囲んで矢倉岳踏破記念集合写真。撮影は矢倉岳に「常駐」している名物おじさん。この日も仲間と来ていて、撮影の後みなさんに「矢倉岳バッチ」をプレゼントしてくれました。手作りなのでしょうか、数に限りがあり頂けた人は良い記念になりました。矢倉岳山頂直下は急峻な下り、上ってくる人とのすれ違いも考慮して山伏平までは2班体制で下山。12時00分、A班（河野SL、高橋友、平石、澤、奥村、加納、市村L）が下山開始。1分後にB班（三田、勅使河原、奈良、清水、丹後、小田、内海、山田SL）が下山開始。15分ほどで標高720mの山伏平まで150m下りてきました。



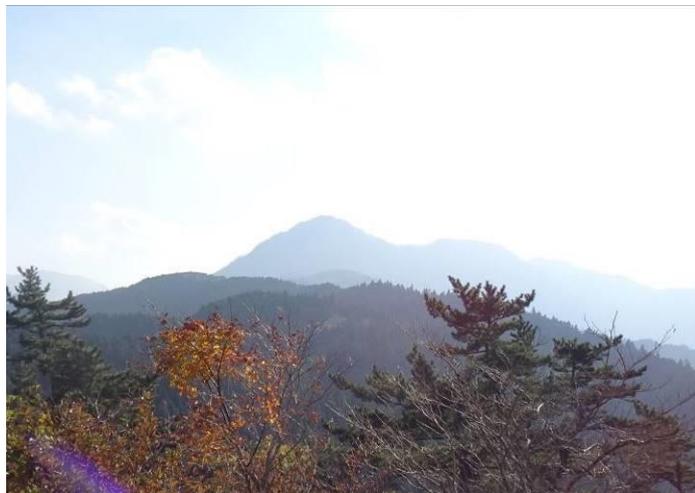
山伏平～分岐～アップダウン道～尾根道～足柄万葉公園～バス停

山伏平からすぐ下の地藏堂との分岐で、B班がA班に追いつきました。ここからはルートの的にも時間的にもすれ違いほとんどないということで、A班B班区別なく一緒に足柄峠（標高736m）をめざしました。先頭河野SL、中団市村L、最後尾山田SL。前半は木の根の張った緩やかなアップダウンの道。12時30分ごろ、後続のひとりが「(足を木の根に引っかけて) 転んだ」との連絡があり、先行グループストップ。2～3分して「(応急処置をしたので) スタートします」の連絡があり、再スタート。後半は一昨年台風19号の影響で通行止めがあり、迂回ルートの尾根道へ出て、ロープが張られた急登を上り小休憩。転んだ人の状態確認、両手両膝をついてしまい左手甲については痛み止めのスプレーをかけたとのこと、右頬が赤みを帯びていましたが血は出ていませんでした（その後の整形外科受診で左手の甲骨折と判明）。状態確認のち再び歩きはじめました。万葉集に詠われた歌碑が立つ万葉公園の中を歩き13時28分、足柄万葉公園バス停（4月5月10月11月の土休日運行）へ出ました。左手はるか後方に矢倉岳が見えます。



万葉公園バス停～13時35分 足柄峠～ビュースポット足柄城址

車道を歩き13時35分、神奈川県と静岡県の県境足柄峠に到着してトイレ休憩。出発予定時間の14時まで少し時間があるので、前回希望のあった足柄城址へ上がることにしました。ここがビュースポット、富士山は雲に隠れて見えませんが足柄平野を一望、南に金時山が見えました。澤さんから「くりみっこ」という菓子の差し入れ、しばし談笑の輪。あとは下りのみ、ゆったりした時間が流れました。



足柄城址～晩秋の足柄古道～御殿場大井線～ススキと皇帝ダリア

足柄城址の説明板があり「創築年代などについては不明、城郭としては小田原後北条氏の属城で曲輪と土塁、井戸跡、倉屋敷、砦等があり、豊臣秀吉の小田原攻めの後廃城となった」と書かれていました。いにしへの歴史にも触れて城址を出ました。14時丁度、予定通りの時間に足柄峠から足柄古道を下りて地藏堂をめざします。晩秋の気配を感じる足柄古道と県道78号御殿場大井線を出たり入ったりして高度を下げて行きます。みなさん慎重に足を運びますが足どり順調です。左手に形の良い矢倉岳が見えました。左下を流れる相川河岸にススキと皇帝ダリア、ズームを一杯にきかして撮りました。



14時59分 地蔵堂 クールダウン 1万8000歩 距離:10km

14時59分に地蔵堂へ下山、もみじが赤く色づいていました。駐車場に下りて河野SLのリードでクールダウン。歩数は1万8000歩、距離は10km。山田SLが「来月金時山で会いましょう」とあいさつ。バス停へ移動して15時25分発のバスに乗車しました。

今回、転んだ方が後日骨折していたと伺い、健脚コースでの安全山行に大きな課題を残したと思います。みなさんのご意見を伺い、安全山行をめざしたいと思います。怪我をされた方の1日も早い回復を願っています。
(いちむら記)

